

「北極圏旅行記 2017-2018 冬 (2)」

～フィンランドのコテージ～

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

ヘルシンキ空港は、モスクワを除けば、直行便のあるヨーロッパの都市では、日本から一番近い。今回も約10時間のフライトで、あっけなく北欧に到着した。機内食もおいしくて、満足だった。



ヘルシンキ・ヴァンター国際空港に着くと、空港全体が木の香りに包まれていて、「ああ、北欧に到着したな」という気持ちになる。いつもは、ここでロバニエミ行きに乗り換えるのだが、今回はレンタカーカウンターへ直行!・・・と思っていたのだが、予約したレンタカーのカウンターがどこにもない。いろいろ聞くと、どうも近くのホテルのロビーにあるらしい。最初から書いてよ、そのこと、ホームページに。無料シャトルバスでホテルへ。無事に車をゲットできた。



荷物で一杯のトランク。冬の北極圏の旅は、さすがに荷物が多くなる。半分は防寒具、食料も相当な量になる。まるで北極探検隊。



ヘルシンキから北へ向かう、国道E75号線。午後5時なのに、もう真っ暗。ひたすら北へ向かう。



400kmを約6時間かけて、今日の宿泊地に到着。宿泊地の手前で、普通の民家をコテージと間違えるというハプニングがあった。オーナーのアンネさんとウルポさんは、遅くまで寝ないで待っていてくれた。



オーナーのアンネさんが、施設の説明をしてくれた。とても優しく、それでいて控えめなフィンランド人らしいご婦人である。



この貸別荘はあまりにも素晴らしい。二階建てで、広さは135m²。ベッドルームは4部屋。10人で宿泊可能だ。何人で泊っても1泊135ユーロ（約18000円）は驚き。写真はダイニングルーム。



クリスマスツリーもシンプルな北欧風。暖炉、居間、サウナ（室内と屋外の2つ）、ランドリーなども充実。トイレの2か所ある。



庭にある小さな小屋。とてもかわいらしい。雪の夜には妖精でも出てきそうである。



これが敷地内にある、サウナ小屋。これはフィンランドの伝統的なサウナで、薪で岩を温めて、そこに水をぶっかけて蒸気を発生させる。このとたりには、脱衣専用の小屋もあって、まあ、ものすごい施設の充実ぶりだ。



この絵は、渡航前に私が書いて持参したものだ。だいたい思い描いていたイメージと一致していた。この絵は額に入れて、アンネさんに差し上げることにした。

この日は、オーロラがかなり見えていたのだが、このあたりは緯度も低く、しかも曇り。残念ながら一日目の晩は、オーロラは見えなかった。明日は北極圏に移動して、その後6泊するので、オーロラ観望が期待できそうだ。